

『タイ人教師と日本人教師のためのチーム・ティ칭ング事例集』
CD-ROMの内容

TT_00_manual	はじめに タイ人の先生方へ 日本人の先生方へ チーム・ティ칭ングの基礎知識 1. チーム・ティ칭ングの定義 2. チーム・ティ칭ングのメリット 3. チーム・ティ칭ングの形態 4. 効果的なチーム・ティ칭ングのために
TT_01_hiragana	ひらがな 1 あいさつ、な行・は行 ひらがな 2 ひらがな・カタカナの読み方 ひらがな 3 ひらがな・カタカナの書き方 ひらがな 4 ひらがな・カタカナの読み方
TT_02_bumpoo_(01-06)	ぶんぼう 1 アムさんは学生ですか ぶんぼう 2 ～がありますか ぶんぼう 3 ～が好きですか ぶんぼう 4 ～は（場所）へ行きます ぶんぼう 5 （乗り物）で行きます
TT_03_bumpoo_(07-12)	ぶんぼう 6 ～はどこですか → ～の～です ぶんぼう 7 家族紹介 ぶんぼう 8 ～たことがあります ぶんぼう 9 ～はどこですか → ～階です ぶんぼう 10 ～ことができます ぶんぼう 11 （乗り物）でどのぐらいかかりますか。 ぶんぼう 12 道案内
TT_04_kaiwa	かいわ 1 自己紹介 かいわ 2 自己紹介 かいわ 3 ハンバーガー屋 かいわ 4 レストランで注文する かいわ 5 売店で買い物をする
TT_05_bunka	ぶんか 1 セタの短冊を書く「～ますように」 ぶんか 2 日本の食事のマナー ぶんか 3 クイズを通して日本文化を知る ぶんか 4 日本の受験事情 ぶんか 5 日本の「さくら」について知る ぶんか 6 日本人のうちの訪問する
TT_06_classroom Japanese	ひょうげんしゅう 表現集

1. はじめに

2013年現在、タイ中等教育機関の多くの学校で日本語科目が開講されています。現場では多くのタイ人日本語教師（以下、TT）や日本人日本語教師（以下、JT）が日本語を教えています。しかし、同じ学校にTT、JTがいる学校も増えていますが、チーム・ティーチングを行っている学校は少ないようです。その理由として、以下のようなことが聞かれます。

- ・授業時間数が多く、チーム・ティーチングをすると効率が悪い
- ・タイ語あるいは日本語で、十分なコミュニケーションがとれない
- ・チーム・ティーチングをしてみたいが、どのようにすればいいのかわからない

確かに「授業のコマ数が多い」「コミュニケーションがとれない」というのでは、チーム・ティーチングをするのは難しいかもしれません。しかし、「してみたい」「興味がある」という声は、特に、JTがいない学校のTTからよく聞きます。

また、観察していると、「経験が浅いので、日本語をどうやって教えていいか、まだよくわからない」という先生も多いようです。中等学校での日本語教育は、歴史も浅く、多くの先生方が、試行錯誤しながら、中高生向けのいい授業とはなにか、考えているところだと思います。

そこで、コンケン大学教育学部は、『タイ人教師と日本人教師のためのチーム・ティーチング事例集』（以下、事例集）を作成し、TT、JT双方がチーム・ティーチングについて考えるためのプロトタイプを提供することを考えました。そして、東北タイの有志の先生方とプロジェクト・チームを作り、2012年6月から12月にかけて授業例を収集しました。この事例集の授業例は、その一部です。

実際にチーム・ティーチングをしてみると、うまくいくこともあれば、うまくいかないこともありました。しかし、チーム・ティーチングの過程で、多くのことを考えることができ、なにかしら、気づきを得る機会になりました。

この事例集では、タイ人教員が授業を主導し、日本人教員が補助するというスタイル（TT主導・JT補助型）を中心に授業を考えています。そして、授業をイメージしやすいように具体的な授業例を載せました。また、できるだけ、コミュニケーション能力が伸ばせる授業、文化理解につながるような授業を組み立てるようにしました。自分が授業をするなら、こうしたい、このような活動も入れてみたいなど、具体的にイメージしながら見ていただき、授業の参考にさせていただけたら、幸いです。チーム・ティーチングに、ひとりでも多くの先生が興味を持ち、挑戦してくださることを願っています。

2013年3月

2. タイ人の先生方へ

タイへ来たばかりの、まだ経験の浅いJTは、タイでの仕事や生活を楽しみにしていますが、いろいろ不安なこともあると思います。タイの習慣や学校教育の現場に慣れるまで、時間もかかります。うまくいかないこともあるかもしれませんが、温かい目で、見守っていただければと思います。

【注意点】

1. 教室で生徒（以下、S）の前に立つことに慣れていません。最初は緊張すると思います。
2. 声が大きすぎる人や、声が小さすぎる人がいます。Sに聞こえる、ちょうどいい大きさで話してもらうようにしましょう。
3. 授業のまえに、短い時間でもいいので、打ち合わせをしたほうが、JTは安心して授業に臨めます。
4. 日本語教育を専門に勉強していない人の場合、日本語の教え方がよくわからないこともあります。その場合はきめ細かい指導やアドバイスが必要かもしれません。
5. 忙しくて話す時間がない場合は、だいたいのスケジュールを話しておくといいです。JTにできるだけ教科書のことば、練習、会話をよく見て、準備しておくように伝えてください。
6. JTにできるだけSと日本語で話すように伝えましょう。Sが日本語を話すチャンスをたくさん作るようにしてもらいたいと思います。

3. 日本人の先生方へ

タイへ来たばかりの先生は、タイの習慣や学校教育の現場に慣れるまで、時間がかかると思います。うまくいかないこともあるかもしれませんが、タイの文化、タイの文脈を尊重し、様子を見るところから始めましょう。

【注意点】

1. ティーム・ティーチングに慣れていないTTの場合、いろいろ試すところから始まります。例えば、Sのリピートのモデルだけで終わるということもあるかもしれませんが、TTの希望をくみ取ってサポートしましょう。
2. TTの授業の進め方によくないと思う部分があっても、まずは様子を見ましょう。TTのほうが授業に慣れているし、TTにはTTのやり方があります。それを尊重しましょう。
3. TTの日本語の間違いを指摘する場合、その場でしてもらいたいというTTと、授業のあとでしてもらいたいというTTがいます。よく話し合っ、どのような形で指摘するか決めたいと思います。JTも外国語を話すとき、間違えることはよくあることだと思います。
4. 声は、Sに聞こえるように、少し大きい声で話しましょう。助詞で上がりすぎるなど、不自然な発音、イントネーションにならないように気をつけましょう。また、方言を出さないように気をつけましょう。地方出身の方は、はじめて教えることばをアクセント辞典で調べる習慣をつけるといいです。
5. 初級学習者であるSに見せる手書きの字は、Sのお手本です。大人の字、癖字、崩し字を書かず、楷書で書いてください。TTから「JTがきれいなひらがな、カタカナが書けなくて、困る」という声がときどき聞かれます。

6. タイ語ができる人は、タイ語を積極的に使うのは、やめたほうがいいと思われます。Sは、タイ語がわかるJTとは日本語で話そうとしない傾向があります。TTにしか習っていないくても、日本語がたくさん話せるSがいるのに、JTにも習っているSが、ぜんぜん日本語が話せないことがあります。SがJTに会っても、簡単なあいさつさえ日本語で言えない場合、授業のやりかたや、Sとの日本語でのコミュニケーションの取り方を見直したほうがいいかもしれません。Sが日本人と話す機会はその学校でもあるわけではありません。貴重な機会を奪わないよう心がけましょう。
7. TTは授業以外の業務でも忙しく、急に授業ができなくなることも多いです。突然授業を頼まれても、なにかすぐできるように、授業準備をしておくといいです。

4. ティーム・ティーチングの基礎知識

1. ティーム・ティーチングの定義

ティーム・ティーチングとは、二人以上の教師が、同じ目的を持って、ひとつのクラスのひとつの科目の指導をすること、授業の計画、実施、評価をいっしょにすることです。授業に複数の教師がいっしょに入るときもあるし、一人で授業に入るときもあります。たとえば、1時間目は学習項目の導入や基本練習を一人の教師がして、2時間目にもう一人の教師が応用練習をする、というのもティーム・ティーチングです。この事例集では、ひとつの授業にタイ人日本語教師(TT)と日本人教師(JT)がいっしょに授業に入って指導する事例を紹介します。TTとJTが協力して、それぞれの長所、専門性をうまく出せたら、授業目標をより効果的に達成することができるでしょう。

2. ティーム・ティーチングのメリット

TTとJTのティーム・ティーチングにどんな利点があるでしょうか。

メリット1 生徒がネイティブと直接コミュニケーションできる。

あいさつや、自己紹介など簡単な日本語でも、JTの話したことがわかった、自分の話したことが通じた、という経験はSに達成感を与え、日本語学習の大きな動機づけになるでしょう。

メリット2 生徒がネイティブの音声やしぐさに直接接することができる。

CDの音声では知ることができない、くちびるの動きや表情を見ることもできますし、発音もはっきりと聞くことができます。また、あいさつのおじぎのしかたなど、ジェスチャーを見せることもできます。

メリット3 生徒が日本や日本語について質問することができる。

JTとの授業は異文化交流の場でもあります。JTのこと、日本での生活や日本語について知りたいことがあれば、直接聞いてみるができます。

メリット4 生徒が日本語でタイについて伝える機会が作れる。

いつもJ Tから「教えてもらおう」だけではなく、SからJ Tに日本語で「タイのことを伝える」ことができます。学校生活や食生活などについて日本語で話すことは、J Tがいれば、より真実味のある楽しい活動になるでしょう。タイと日本の文化の相互理解のためのいい機会になります。

メリット5 教師二人で生徒を指導することができる。

S一人一人に質問をしたり、質問を受けたり、Sが書いたものをチェックしたりするときに、教師が二人いれば、たくさんのSを個別にチェックすることができて、効果的です。

メリット6 教師二人で授業を評価できる。

授業中の生徒の反応や達成度について、異なるふたつの視点から評価をすることができます。また、一人の授業より、より客観的な評価ができるでしょう。そこから授業の改善点を見出すこともできます。

3. ティーム・ティーチングの形態

ティーム・ティーチングには3つのパターンがあります。

【A】T T主導・J T補助型

教案の作成から授業の実施まで、T Tが中心になって行います。T Tは日本語とタイ語を使いながら、授業をします。J Tは発音のモデルをしたり、Sの会話の相手をしたりして、サポートします。

【B】J T主導・T T補助型

教案の作成から授業の実施まで、J Tが中心になって行います。J Tは日本語だけで授業をします。T Tは、必要なときだけタイ語で説明したり、生徒の会話の相手をしたりして、サポートします。

【C】T T・J T共同型

教案の作成から授業の実施まで、T TとJ Tがいっしょに行います。それぞれが積極的にアイデアを出しながら、授業を準備します。

【A】～【C】にはそれぞれに長所、短所があります。教育経験が長く、指導がうまい教師ならば、どのパターンにもうまく対応できると思われます。しかし、教育経験が浅い教師は、一人で授業をする場合も、授業の準備が大変かもしれません。この事例集では【A】を中心に扱います。タイの社会、タイの文化を理解しているT Tが主導することで、タイのことがよくわからないJ Tが授業に早く慣れるように、手伝うことができます。J Tには、T Tの考え方や授業の進め方を理解し、うまくサポートすることが求められます。

4. 効果的なチーム・ティーチングのために

4.1. TTとJTのチーム・ティーチングで、してみたいこと

○活動の前にTTとJTがコミュニケーションの例を見せる。

タイ語で説明するだけでなく、TTとJTが話す場面を実際に見せることができるので、Sが場面を理解しやすくなります。

○TTとJTによる会話を聞いて、聴解練習をする。

生徒が理解できるレベルの会話を聞き取る練習も、簡単にすることができます。

○JTが生徒とコミュニケーション練習をしているとき、必要に応じて、TTがタイ語で生徒の理解を助ける。

TTは、JTとSのコミュニケーションを観察しながら、Sの理解を確認することができます。コミュニケーションがうまくできないことがあっても、すぐにタイ語で通訳するのではなく、Sに考えさせたり、タイ語でヒントを与えたりすることができるのは、TTの強みです。

4.2. TTとJTのチーム・ティーチングで、しないほうがいいこと

○JTが日本語を聞かせるだけ

JTがことばの発音モデルをするだけとか、教科書の文を読むだけでは、JTはつまらないと思うかもしれません。もちろん、発音のモデルもお願いしたほうがいいですが、それだけでなく、授業の中で、JTとSがコミュニケーションをする活動があるといいでしょう。

○TTがJTの日本語をすぐにタイ語に通訳する

これをする、Sは、日本語で理解するのではなく、タイ語で理解することになります。すぐに、全部を通訳する必要はありません。Sに考えさせたり、わかりにくいところをSに質問したりするといいでしょう。

○日本語のまちがいを、Sの前で直す。

TTもJTも、字、ことば、文法、発音などを間違ってしまうことがあります。そのときに、「先生、それはまちがいですよ！」とSの前で直すと、Sが不信感を持つかもしれません。大きいまちがいでない場合は、あまり気にしなくてもいいでしょう。大きいまちがいで、直したほうがいい場合は、小さい声で、2人だけで話すといいです。

○JTがタイ語で話す

タイ語ができるJTも、Sと話すときは、教室の中でも外でもできるだけ日本語で話しましょう。「JTはタイ語ができる」とわかったら、Sは日本語で話そうとしないことがあります。

じんきょう し にほんじんきょう し じれいしゅう
『タイ人教師と日本人教師のためのチーム・ティ칭事例集』プロジェクト・チーム

しつぷつ へんしゅう
【執筆・編集】

Kanako Osada

Khon Kaen University

Yasujiro Takei

Suranari Wittaya School

じゅぎょうじつし
【授業実施】

Bulan Pasan

Banpai School(～2012.09)

Dawrung Chamnannak

Suranari Wittaya School

Kanako Osada

Khon Kaen University

Kliowpun Chancharoen

Prakhonchaipittayakom School

Makaporn Khanploo

Kanlayanawat School

Niratchada Chantaramano

Suranari Wittaya School

Sudarat Takachote

Suranari Wittaya School

Sujittra Soosuek

Suranari Wittaya School

Yasujiro Takei

Suranari Wittaya School

Yuri Asano

Ratchasima Witthayalai School(～2012.09)

ごほんやく
【タイ語翻訳】

Jaranya Chumyangsim

Khon Kaen University

Watchara Suyara

Khon Kaen University

さんこうぶんけん
【参考文献】

일본국제교류기금 서울문화센터(2005)『한국인교사와 원어민교사에 의한 팀티칭 일본어수업 사례집』(국제交流基金ソウル日本文化センター(2005)『韓国人教師と日本語ネイティブ教師のためのチーム・ティーチング日本語授業事例集』) <http://www.jpfr.or.kr/language/tt/index.htm>

きょうし にほんじんきょう し じれいしゅう
タイ人教師と日本人教師のためのチーム・ティ칭事例集

編集・発行 Teaching Japanese Program, Faculty of Education, Khon Kaen University
123 Mitraparp, Khon Kaen, 40002, Thailand

発行日：2013年3月

©2013 Khon Kaen University

むだんてんさい きん
無断転載を禁じます。